



福岡小学校が会津若松市の謹教小学校と修学旅行訪問交流



▲謹教小の児童にあいさつをする秋田さん



▲互いに記念品を贈る児童たち

6月13日、福岡小学校の半沢芳典校長と6年生の学年主任の加藤寿一教諭、6年生の秋田綾徳さんと佐藤もさんの4人が市役所を訪れ、武田教育長に6年生の児童43人が福島第一原子力発電所の事故による風評被害で、修学旅行が減少している会津若松市で交流を深めたことを報告した。

同校の児童は、会津若松城近くの謹教小学校で6年生84人と交流。福岡小は「雛こけし」や全児童の気持ちを込めたメッセージパネル、謹教小は郷土玩具「起き上がり小法師」や手作り観光リーフレットをそれぞれ相手側に贈った。

秋田さんは「戊辰戦争の際、

白石城で交わされた奥羽列藩同盟を再現し、ともに厳しい状況を乗り越えましょう」と呼び掛けたことを報告。佐藤さんは謹教小の児童から「白石も大きな被害を受けたのに、会津へ来てくれてありがとう」と話があったことなどを報告した。

武田教育長は「城下町同士の絆で新たな交流を深めてください」と話し、秋田さんは「風評被害で会津若松を訪れる人が少ないと聞きました。1日も早く震災前のように戻るといいなと思います」と話した。そして、加藤教諭は「修学旅行の思い出をまとめた文集やお礼状を送り、さらに交流を深めていきたい」と今後の抱負を話した。

城下町の絆で風評被害を乗り越えよう



碧水園能楽堂の1日も早い復興を

▲平成21年6月、新作能「兼統」シテ・直江兼統(小島英明さん)

写真提供：前島写真店(東京都港区)

小島英明さんが白石市を訪問 白石市に寄付

震災から3カ月の6月11日、観世流能楽師の小島英明さんが白石市を訪れ、東日本大震災により被災した碧水園能楽堂の復興を支援するために集めた寄付金20万円を風間市長に手渡した。この寄付金は、小島さんが所属する観世九草会の演能会や、埼玉県熊谷市妻沼聖天山歓喜院にてシテ(主役)を演じた奉納薪能で、集めたものである。

小島さんの母親は白石市出身。縁結びで有名な妻沼聖天山開祖斎藤美盛の末裔で、現当主・30代目の斎藤強さん(小原)は、小島さんの従兄弟である。

小島さんの祖父は先々代、伯父は先代観世喜之に師事した能楽師で、幼少から能楽に親しみ平成12年独立。国内外の公演以外にも、能楽普及のための講座



▲風間市長に寄付金を手渡す小島さんたち

を自ら企画し、実施してきた。碧水園能楽堂でも平成13年の「碧水園開館十周年記念公演」を機に、毎年6月、定期公演を続け、平成18年には白石城本丸で「碧水園開館十五周年記念薪能」や、多くの人に能楽に触れる機会を持つて欲しいと、「能楽セミナー」を開催。その年以降このセミナーを楽しみにしている方も多く、参加者は年々増加している。

また、平成17年から、白石の子どもたちに伝統文化の体験や継承のために「子ども能楽教室」を月2回開催。練習だけではなく、「城の会」や「伝統芸能フェスティバル」などのイベントに子どもたちも参加し、練



▲伝統芸能フェスティバルで仕舞を披露する子どもたち

習の成果を披露している。碧水園で定期公演を始めて11年を迎える今年は、碧水園開館二十周年記念公演を予定していたが、能楽堂が東日本大震災により被災したため開催を断念。小島さんは「碧水園能楽堂は東北で唯一、室内にある能楽堂で文化の拠点。能楽を学べる講座の再開を待ちわびている方も多いと思います。一日も早い再開を願って、これからも縁のある者として微力ながら活動が続けていこうと思います。そして、能楽堂の修復が終了した暁には、記念の能公演を開きたいです」と話した。風間市長は「斎藤美盛の縁で熊谷市と白石市がつながったことに感謝します。必ず復興します」と話した。

また、この日小島さんは、小島さんや被災地にゆかりのある能楽師約60人が宮城、福島、岩手の3県で、来年3月からチャリティ公演をスタートさせるために活動を始めたことを報告。「みんながつながってこれからも被災地を支援していきたい」と話した。



▲想いが込められた募金

